

# ばらんす

第32号

## 編集発行

大田原市総合政策部  
政策推進課 市民協働係  
〒324-8641  
大田原市本町1丁目4番1号  
☎ 0287-23-1389  
FAX 0287-23-8748

## イクメン、イクジイ講座開催

子育て世代のパパ、孫育て世代のジジを支援するイクメン講座(平成23年11月26日)とイクジイ講座(平成23年12月17日)が、市総合文化会館で行われた。男女共同参画の推進は、どちらかという今まで女性の地位向上に重点が置かれてきた。今回は、視点を子育て世代の男性、孫育て世代の高齢者に当てられた。子ども、孫との豊かなコミュニケーションの手段、そして地域デビューのあり方など、ピザ作りの実習、絵本の読み聞かせを通し楽しく行われた。



### イクメン講座

20代、30代の子ども連れの男性、20代の独身男性など若さ溢れる20数名が受講した。講師は、宇都宮市でまちづくりに活躍される和氣博之さん。3人の子どもが中学生、高校生と育ち、共に楽しく遊べる子育て時代が終わりましたと言われる。ちよつと先輩世代である。



今日のシェフはパパ

講座は、いきなり調理室に移動しピザ作りから始まった。「ハイハイ」お父さんやらせて「ちよつと待つて」ワイワイガヤガヤ...。童心に返ったお父さんのピザ作りは、生地づくりから始まりチーズ、トマト、ベーコンなどをトッピングし、あつと云う

間に焼き上がった。

その後、ピザの匂いが立ちこめる教室で、ちよつと自慢のできる小物づくり、様々な遊びを教わった。

和氣先生は童心に返り、兄貴分になつたつもりで子育てに係わり、自分も楽しむことが大切と強調された。また、「子どもと遊べる時期は、意外と短く今しかありませんよ」と自身の体験を通して語られた。

#### 【参加者の声】

◇ピザ作り、講議とアツと言つ間の2時間でした。◇美味しくてわりと簡単、何事も先ずは一歩、踏み出すことの大切さを教わりました。

### イクジイ講座

受講したのは50代後半から70代、戦前・戦後の混乱期生まれの不器用なジジ(爺)と、子育て経験のあるババ(婆)20名である。講師は生涯学習1級インストラクターの栗原敏子さん。

講座では、絵本が子どもとのコミュニケーションの潤滑油となり、子どもの心を育むなど、絵本の多くの効用が紹介された。また、成長の過程での絵本の選び方、読み方のコツなどが解説

された。

また、受講生は、数人のグループに分かれ、童心に返つた雰囲気で一冊の絵本の回し読み、感想の発表などを通し絵本の意外な魅力を体験した。

#### 【参加者の声】

◇イクジイ講座ちよつと抵抗があつたのですが、絵本の物語に感動し、続きを読みたくくなりました。◇男の読み聞かせグループができればいいなと思いました。

孫の笑顔を楽しみに!





# シリーズ 輝

有機清酒醸造元、蛭畑の天鷹酒造に二人の社員が入社した。綱川佳名子さん(26)と、但馬有紀さん(22)である。醸造技術者として勤務している。

綱川さんは酏屋(酒の仕込みの前に優良な酵母を大量に培養する部署)の係、但馬さんは麹造りの助手や、その他酒造り全般を体験中である。

綱川さんの所属の製造部は、最高責任者である杜氏のもと、男女10人(女性3名、男性7名)が酒造りのため、一緒に働いている。

二人とも仕事上約30kgもあるものを持つことや、寒い所で働くことなどもあるが、他の男性社員と同じに行っている。

二人に仕事への思いをお聞きすると

「入社前、酒造りは伝統の技術と想っていたが、実際に仕事をしてみると、酒造りは伝統の技術に基づいた科学であり、常に進化し続けていることを知った。これからは先輩から多くのことを学び吸収し、研究の結果を現場で生かせるよう勉強したい。そして杜氏を目指して頑張っていく」

とのことだった。

酒造りについて尾崎社長から貴重なお話を伺った。

「酒造りは、家族の食べ物を作るように、長い間、女性の仕事だった。そのとき、家の中で酒造りの上手なのが刀自(家事を司る婦人の意、老婦人)であり、一年中時期を問わず、祭りや祝い事に合わせて作

## 杜氏をめざして



綱川さん(左)と但馬さん(右)

っていた。この「刀自」という言葉から「杜氏」という言葉が出来たという説もあるという。それが、寒い時期に大量生産するようになって、力仕事が多くなり、杜氏を中心とした男性の仕事になったというのである。もともと酒造りは女性に適している。理由は、酵母は生き物



酏屋の作業風景

であり、赤子を面倒見るように、昼も夜も見守つてやらねばならない。そうした細やかな気配りによって育てていく。赤子も酵母も言葉は話せないで、こちらから推し量って面倒をみる必要があるからだ。男女は根本的に違うが、能力は同じである。製造部では全員にフォークリフトの資格も取得させている。機械の操作に男も女もないからだ。」

社長の合理的な男女平等の方針のもと、若い二人が働けることは幸せなことである。

薄緑色の作業服姿は、凜として、仕事への情熱を感じる。女性の新たな職域である杜氏へ向かって歩みだした二人の前途に心から声援を送る。

## 男女共同参画講座 ～地域とともに豊かに生きる～



\* 第3回講座は、11月14日(月)市総合文化会館において、演劇集団agasa代表劇作、演出家の阿笠清子氏を迎えて行われた。『山の動く日来たれ! ~今男と女の生き方を問う~』をテーマに、劇で見る謝野晶子、平塚らいてうなどの母性保護論争を元に、現代に通じる男と女の生き方について話された。晶子の愛のとらえ方は、他に関心を持ち、受け入れる事。この世で最も美しいのは、人を思いやることだと強調された。

\* 第4回講座は12月1日(木)、『地域の中でありがとうをつなぐ~「恩返し」から「恩送り」へ~』をテーマに、NPO法人ワーカーズわくわく、市民セクターよこはま理事長中野しずよ氏が話された。「恩送り」とは、恩を受けた人に返すのではなく、他の必要な人に恩を送ること。あらためて地域の中で、どう生きていくのか考える機会となった。





近年、我が国は少子高齢化が急速に進展するなか男性、女性を問わず高齢化する親世代の介護あるいは、子育ての担い手として、仕事と家庭の両立が求められている。

そんな中、佐良土の有限会社郡司工務店は、栃木県が進める「従業員の仕事と家庭の両立を応援するぞー」という「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」に応募し登録証と登録マークが交付された数少ない事業所の一つである。

この運動は事業主が、仕事と家庭の両立を積極的に宣言する事で、従業員の皆さんの育児、介護、社会参加の為に休暇あるいは仕事時間のやり繰りをし易くし、働きやすい環境をつくらうというものである。

郡司工務店は、代表である郡司等さんの父親の代から住宅の新築、リフォームを手がける工務店で、4名の従業員を抱えられている。郡司さんが栃木県の施策である「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」を知り応募されたのは、たまたま話を聞き、共感したからだと言われる。

「自身も、丁度その頃PTA会長を引き受ける事になり、学校との所

## 「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」事業所

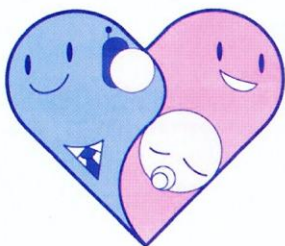
用で仕事時間に出かける事も多くなった。そんな時、事業主の立場でも、仕事のけじめがつかず、へまた……と辛い時があったそうである。従業員は、親の代からの方が大多数で、不文律で所用がある時はお互いに話し、補い合う家族的な雰囲気はあった。しかし、会社としてルール化はしていなかった。



有限会社 郡司工務店  
代表取締役 郡司 等さん

事などに参加する時、事前には知らせて貰う条件で、遠慮なく参加して頂けるように配慮するをルール化し「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」運動に応募し宣言をした。

郡司さんが、従業員の前で宣言をした時、元々職場に、お互いが融通しあえる雰囲気があり、皆さんからは、へいまさらくと反応は、いま一つだったようである。



### 「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」登録マーク

登録マークは、育児と仕事をハートの形に表現され、仕事と家庭の両立は、愛情が大切と伝えている。ノーベル平和賞を受賞したインドのマザー・テレサは「愛の反対は無関心を示すことである」と伝え、郡司等さんの事業所は、登録マーク取得に相応しく、仕事と共に家庭、地域にも関心を寄せる事業所として、愛情が溢れていた。

「従業員のためと言うより、当初は自分のために宣言をしたようでした」と郡司さんは笑われた。そんな雰囲気では「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」のスタートだったが、子育て世代の従業員が、年数回の休暇を取得され子どもの遠足、父親参観日に参加し、家族からも大変喜ばれた。「これからは学校行事以外でも、地域のいろいろな行事、地域・学校などの各種役員、家族の介護など、へ仕事と家庭の両立は避けて通れない」と、宣言事業所としてのこれらを語られた。

## 《男女共同参画起業家支援講座》

ライフ・プロデューサーはあなた自身！  
～「したいことをカタチにする力」を磨いて、起業への道～

1月14日(土)市総合文化会館でWWB/ジャパン(女性のための世界銀行日本支部)代表の奥谷京子氏を迎え起業家支援講座が行われた。講座は、奥谷先生が携わった起業支援の事例紹介及び「おはよう日本」で放映された被災者支援(女性の仕事づくり)の実践例が紹介された。それらは、人の絆、優しさを含み、自然のリズムにも合致し輝いていた。身近な事例として那須町在住の(株)サクネス代表澤野典子氏により、ヘチマ水「月子」誕生の秘話が紹介された。

この講座には20代から60代の男女が参加し、質疑の時間、何人かの手が挙がり「夢」が語られるなど、熱がこもった講座となった。





## 男女共同参画講演会

1月28日(土)市総合文化会館において、男女共同参画講演会が開催された。(株)樹一市村酒造場代表取締役セーラ・マリ・カミングス氏の講演と第10回大田原市女性の海外研修事業派遣団員の報告が行われた。



### セーラが町にやってきた ～挑戦！伝統の町の再生へ～

交換留学生としてアメリカから来日。長野オリンピックでボランティアするため再来日し、長野県小布施町に居住した。

250年の伝統があるが経営難の酒造場に就職して、空き蔵をレストランにし雇用を増やしたり、販売所は自社製のみの販売に切り替えるなどして再建させた。

小布施町では、毎年セーラが実行委員長となり約7000人参加する《小布施苑にマラソン大会》が実施されている。また、月一回開催する《小布施セッション》は住民や観光客、学生等がワクワクする異文化交流の場となった。そして《1530運動》市ゴミゼロ運動という街頭清掃の仕組みを作る等、セーラ氏主催の町おこしの活動を映像を交えて楽しく語られた。

講演の中で「人生はマラソン、応援されたり孤独だったりするし、壁にあたったり、出会いで変わったりもする。何事も前向きに対処しよう」「男だから女だからではなく、人として行動し、思いやりをもって接することが大切」などの言葉が心に残った。



セーラ・マリ・カミングス氏

### 《報告会》

スウェーデン、フランスに研修派遣された10名が、映像を使って、教育や福祉、環境問題や、カヴァイヨン市との交流、ホームステイなどを分かりやすく報告した。

## 海外研修を終えて

10回目の節目、東日本大震災の年の派遣団ということで、私たち10人は「Lien(リアン) 絆」を団名称にしました。研修テーマは、「チャンス新たな架橋として未来へ繋げよう～3.11の想いを胸に～」です。

今回は、初の北欧。福祉大国スウェーデンを訪問し、教育と福祉施設を、フランスでは、環境分野を視察しました。日本と同じく高齢化社会を迎えているスウェーデンの福祉制度を見聞し、国民全体がその問題に向き合い、協力し合える体制が作られていることを肌で感じる事ができました。

また、フランス・カヴァイヨン市を表敬訪問した際には、市長をはじめ多くの人々から震災を心配する声やお見舞いの声をいただき、胸が熱くなりました。

この研修に参加し、団員一人ひとり、「男女共同参画社会」について考える機会が多くなりました。今後は団員一同力を合わせながら、まずは市のボランティアに登録をし、活動の幅を広げて行きたいと思っています。



フランス サンペネセ橋を背に

第10回海外研修派遣団 Lien 団長 小沼 愛

### 編集委員募集!!

一緒に「ばらんす」をつくりませんか?  
「ばらんす」(11月、3月発行)の  
編集ボランティアを募集しています。  
年齢・性別は問いません。

【連絡先】 大田原市総合政策部政策推進課  
市民協働係 TEL.0287-23-1389

★取り上げて欲しい情報がありましたらお寄せ下さい。

### 編集後記

「男女共同参画」絵本、題名は「みんなちがって」。作者は小学3年生(絵も文も)。男女に関係なく、それぞれ違って当たり前…。1人ひとり認めあえる社会に…というメッセージが込められています。ばらんすの根底に流れるものと同じ…子どもから男女共同参画が育っています。



### 編集委員

(五十音順)

- ◆ 磯 由美子
- ◆ 栗原 敏子
- ◆ 鈴木 成美
- ◆ 谷辺 範夫
- ◆ 廣田 和子